

合同企業等見学会 in むつ **第3弾**

報告書

～新しい魅力との出会い～



プラス COC + 事業について

COC (Center Of Community ~地域の拠点、地域を地に置き換えて地(知)の拠点という言い方をしています) ^{プラス} 事業とは、オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業のことです。

1 事業の目的

青森県の最大の課題である「人口減少克服」のために、青森県内の大学・短大・高等専門学校計 10 校と、青森県、青森市・弘前市・八戸市・むつ市の 4 市、100 を超える県内企業・団体・NPO などによる「オール青森」ネットワークを形成し、「地域創生人財」の育成と、学生の青森県内への就職や起業支援、雇用創出に一丸となって取り組み、平成 31 年度までに、学生の青森県内への就職率を平成 26 年度から 10%向上させることを目標にしています。

2 事業の内容

青森県内での就職・起業を支援します。アドバイザーによる起業支援、地元企業の若者ネットワークづくり、就職後のキャリアアップ支援、学生企画による企業調査、就職説明会などを行います。

地元企業・地域共育型インターンシップ、女子学生のキャリア支援プログラム、学生発起業実行プログラムにより、青森県の未来を担う人財を育成します。

青森県の強みであるアグリ、ライフ、グリーン、ツーリズムの 4 分野において、大学発新産業で雇用創出を目指します。

目 次

	ページ
はじめに.....	1
I 合同企業等見学会 in むつ実施要項.....	3
II 見学会の様子.....	9
III むつで働くこと、本気と本音の交流会.....	17
IV 参加学生の感想文.....	25
進化を遂げる「合同企業等見学会 in むつ」.....	37
V アンケート集計.....	39
あとがき.....	45

はじめに

「合同企業等見学会 in むつ」は平成 28 年度から始めて、今回で 3 回目となります。この事業の目的は、県内の学生に対してむつ下北地域の企業等の実情をよく知ってもらい、就職やインターンシップの選択肢の一つとして考えてもらおうということにあります。

ご承知のとおり、むつ下北地域には、大学等の高等教育機関がありませんが、学生がいないのなら県内の学生に来てもらって、むつ下北地域の働き方、暮らしをみてもらおう、というのがこの事業の趣旨です。

3 回目となる今年度は弘前大学から 6 名、青森中央学院大学から 11 名の合計 17 名の学生、特に弘前大学からは弘前ブロックの野口コーディネーターの奔走により 4 学部から多様な学生が参加しました。

この見学会は、むつブロックの坂本コーディネーターがむつ下北地域の企業等まわりをして、従業員数がある程度の規模であることや過去に大学生を採用あるいは今後採用予定があること、職種が偏らないことなどを考慮して見学会の受入れ企業等を確保することから始まります。今年度は、製造、整備、建設、小売、観光の各業種の企業のほか、社会福祉法人など多種多様な企業等を訪問することができました。学生にとっては進路を考える上で役立つものと思われれます。受入れてくれた企業等の皆様に厚く御礼申し上げます。

また、今年度は「むつで働くこと、本気と本音の交流会」を初めて開催しました。この交流会は普段あまり接することのない学生と企業関係者が直接集い、「むつでステキに働くには…」をテーマに、ワークショップ形式で本気と本音の交流会を行ったものであります。学生にとっては企業関係者と直接意見交換することができて、貴重な経験になったと聞いています。

さらに、今回初めて両大学から 6 名のベトナム人留学生が参加しました。昨今、外国人労働者の受け入れについての議論が活発ですが、見学会に先立ち、青森中央学院大学経営法学部のギア准教授から貴重なアドバイスをいただくことができました。この場を借りて、ギア先生に厚く感謝申し上げます。

さて、COC+事業は 4 年目を迎え、この事業に参加した学生がむつ市で働くといううれしいニュースもぼつぼつ伝わってきています。今後とも県内大学生とむつ下北地域の企業等との出会いの場をつくっていきたいと考えております。

青森 COC+推進機構
青森ブロック・コーディネーター
佐藤 仁

I 合同企業等見学会 in むつ実施要項

合同企業等見学会 in むつ実施要項

- 1 実施期間 平成30年9月13日(木)～14日(金)
- 2 行 先 むつ下北地域
- 3 目 的 県内の学生及び本県へのU・J・Iターン希望者が、むつ下北地域の企業を訪問し、学生等がむつ下北地域の企業を実地に知ることにより、インターンシップや就職の場としての選択肢を拡大する。
- 4 参加学生 青森中央学院大学 経営法学部10人、大学院1人
弘前大学 理工学部2人、人文社会科学部2人、
医学部保健学科1人、農学生命科学部1人
- 5 引 率 者 青森中央学院大学 COC+事業推進事務局
青森ブロック・コーディネーター 佐藤 仁
青森 COC+推進機構
むつブロック・コーディネーター 坂本 謙二
国立大学法人弘前大学 COC 推進室・助教
弘前ブロック・コーディネーター 野口 拓郎
国立大学法人弘前大学 COC 推進室 中村 康人
国立大学法人弘前大学
地域創生部地域創生推進室 下總 由衣

6 スケジュール

月 日	時 間	内 容
9/13 (木)	8 : 0 0 ~ 9 : 0 0	弘前大学発→青森中央学院大学着
	9 : 0 0 ~ 1 1 : 1 0	青森中央学院大学発→むつ市役所着
	1 1 : 1 0 ~ 1 1 : 4 0	オリエンテーション(むつ市役所 会議室)
	1 1 : 4 0 ~ 1 2 : 4 0	昼食・休憩
	1 2 : 4 0 ~ 1 3 : 0 0	移動
	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 0 0	① アツギ東北 株式会社
	1 4 : 0 0 ~ 1 4 : 1 0	移動
	1 4 : 1 0 ~ 1 5 : 1 0	② 株式会社 大湊精電社
	1 5 : 1 0 ~ 1 5 : 2 0	移動
	1 5 : 2 0 ~ 1 6 : 3 0	③ 野村建設 株式会社
	1 6 : 4 0 ~	移動(ホテルニューグリーン)
	9/14 (金)	9 : 0 0 ~ 9 : 1 0
9 : 1 0 ~ 1 0 : 2 0		④ 社会福祉法人 青森社会福祉振興団
1 0 : 2 0 ~ 1 0 : 4 0		移動
1 0 : 4 0 ~ 1 1 : 4 0		⑤ 株式会社 マエダ
1 1 : 4 0 ~ 1 1 : 5 0		移動
1 1 : 5 0 ~ 1 2 : 3 0		昼食(むつグリーンホテル)
1 2 : 3 0 ~ 1 3 : 1 0		⑥ グリーン観光産業 株式会社(同ホテル)
1 3 : 2 0 ~ 1 4 : 4 0		「むつで働くこと、本気と本音の交流会」(同ホテル)
1 4 : 5 0 ~ 1 7 : 1 0		むつ市発 → 青森中央学院大学着
~ 1 8 : 1 0		弘前大学着

7 訪問企業

- ① アツギ東北 株式会社 むつ事業所
〒035-0061 むつ市下北町 19-5
TEL 0175-22-2311 FAX 0175-22-2339
- ② 株式会社 大湊精電社
〒035-0084 むつ市大湊新町 8 番 5 号
TEL 0175-24-1181 FAX 0175-24-1192
- ③ 野村建設 株式会社
〒035-0076 むつ市旭町 6 番 6 号
TEL 0175-24-1221 FAX 0175-24-1611
- ④ 社会福祉法人 青森社会福祉振興団
〒035-0067 むつ市十二林 11 番 13 号
TEL 0175-23-1600 FAX 0175-23-1601
- ⑤ 株式会社 マエダ
〒035-0071 むつ市小川町二丁目 4 番 8 号
TEL 0175-22-8333 FAX 0175-22-4226
- ⑥ グリーン観光産業 株式会社
〒035-0033 むつ市横迎町 1-2-8
TEL 0175-22-6111 FAX 0175-22-6115



8 オリエンテーション

オリエンテーション次第

日時：9月13日(木) 11:10～

会場：むつ市役所 会議室

1. 主催者挨拶
青森 COC+推進機構 青森ブロック・コーディネーター 佐藤 仁
2. 歓迎の挨拶
むつ市企画政策部市民連携課長 中野 敬三
3. 先輩から一言
青森中央学院大学卒
むつ市総務部防災安全課 主事 俵山 歩
4. 青森 COC+推進機構のむつブロック事業紹介
むつブロック・コーディネーター 坂本 謙二
5. 合同企業等見学会 in むつ 説明
同上



II 見学会の様子

1 アツギ東北 株式会社 むつ事業所

〒035-0061 むつ市下北町 19-5 TEL 0175-22-2311 FAX 0175-22-2339

むつ事業所長 早坂俊彦 総務部長 横山豊

【企業情報】

創業を開始して 45 年。我が国最大のストッキング工場。生産量はアツギ全社のほぼ半分（ATV のガッチリ・マンデーで放映される）。

原料の糸の加工から編みたて、縫製、染色、商品検査まで全工程一貫ラインのある基幹工場という重要な位置づけ。おしゃれと機能性という原点に立ち返って開発したものが好評。急激に伸びる市場ではないが消耗品なので安定市場である。付加価値の高い商品作りをポリシーにしている。

むつ市を選んだ理由は、水とヒト。ストッキングは染色工程で質の良い大量の水を必要とする。労働力確保のためにも、ある程度の人口が必要。むつ市は、この両方を満たす。45 年たつと、親子三代にわたってアツギで働いているヒトもいる。もはや誘致企業ではなく、地元企業といっても過言ではない。

現在、アツギの生産拠点はむつ事業所一箇所に集約された。一貫生産できる工場の強みは商品改良におけるスピード感のあるフィードバックが可能なこと、急ぎの発注に対処できること。



2 株式会社 大湊精電社

〒035-0084 むつ市大湊新町 8 番 5 号 TEL 0175-24-1181 FAX 0175-24-1192

代表取締役会長 西村健 代表取締役社長 柳谷敬 取締役総務部長 四戸希雄

総務部総務資材課 関向安裕子

【会社概要】

■社員数 159 名

■事業内容

海上自衛隊艦船搭載の電子機器類の装備工事、保守点検

海上自衛隊陸上装備の電子機器類の装備工事、保守点検

海上自衛隊艦船修理、各種機器類の保守点検整備

海上自衛隊艦艇機雷の保守整備

■関連業務

電気工事業、電気通信工事業、水道施設工事業、消防設備工事業、土木工事業、機械器具設置工事業、管工事業、タイル・レンガ、ブロック工事業、毒物劇物一般販売業、汚水・汚泥処理施設の管理、一般廃棄物・産業廃棄物の再生処理、コンピュータ用ソフト開発



3 野村建設 株式会社

〒035-0076 むつ市旭町 6 番 6 号 TEL 0175-24-1221 FAX 0175-24-1611

代表取締役 棟方和洋 取締役土木部長 太田尚英

【事業内容】

土木工事、建築工事、浚渫工事、造園・水道施設工事、舗装工事、建築設計施工、一般区域貨物自動車運送、不動産賃貸、不動産管理、港湾整備工事、水中工事、海岸離岸堤工事、保育園の経営もしています。



4 社会福祉法人 青森社会福祉振興団

〒035-0067 むつ市十二林 11 番 13 号 TEL 0175-23-1600 FAX 0175-23-1601

理事長 建部玲子 専務理事 中山辰巳 人材部 木村正信

【企業情報】

- ・むつ市を中心に、介護福祉事業を幅広く展開。
介護・医療・食のトータルケアをめざし、クリニックや真空調理工場を設けています。
- ・福祉の未来を見据えて、国内外において事業拡大中。
ベトナムでの人材育成、ICT ロボットを活用した新しい介護の創造に取り組んでいます。
- ・医療・福祉系職種を目指す方のために、まるめろ奨学制度を設けています。
- ・多様な施設を展開しています。
特別養護老人ホームみちのく荘、みちのくデイケアセンター、グループホームまるめろ、みちのくヘルパースクール、みちのく城ヶ沢フードセンター、地域包括支援センター、ベトナム／フエ事業所（介護人材養成コース）、みちのくクリニックほか。



5 株式会社 マエダ

〒035-0071 むつ市小川町二丁目 4 番 8 号

TEL 0175-22-8333 FAX 0175-22-4226

代表取締役社長 前田恵三 総務部 木村健治 虻川麻衣

【会社概要】

- ・ 1977 年会社設立 年商 281 億
- ・ 経営理念 「先行半歩」知恵を出し、力を惜しむな、行動せよ
お客様の買い物の幸せを実現する。
- ・ シンボルマーク 青森県の鳥ハクチョウ 店舗数 31 店舗 従業員数 1,168 名
- ・ 地産地消、地域密着、環境問題にこだわる。
地産地消 地元の産品を積極的に販売
地域密着 1,800 世帯以上あれば過疎地域でも出店、お買い物バス
環境問題 古紙回収リサイクル、生ゴミのリサイクル、廃油リサイクル
- ・ 女性の店長も誕生している
- ・ 他人が休みの時に忙しいが、平日に休みのため用事を足すことができ、観光地もすいている
- ・ 県内の企業の中でも処遇はよい方である（諸手当、給料、ボーナス等）



6 グリーン観光産業 株式会社

〒035-0033 むつ市横迎町 1-2-8 TEL 0175-22-6111 FAX 0175-22-6115

代表取締役社長 兼 総支配人 鷹架則子 常務取締役 庭田良二

【会社概要】

むつ市内で、下記の2つのホテルを運営しています。

- ・ホテルニューグリーン（ビジネスホテル）
- ・むつグリーンホテル(会議、宴会向きホテル)、健康小町（米ぬか酵素浴が有名）

※むつグリーンホテルの米ぬか酵素浴は女性に大人気で、酵素浴の湯治客もあるほどです。米ぬかの抗酸化作用や含まれる多様な酵素の機能性について、熱く語ります。



Ⅲ むつで働くこと、本気と本音の交流会

「むつで働くこと、本気と本音の交流会」概要

日時：平成30年9月14日（金）午後1時20分～2時40分

会場：むつグリーンホテル 2階 孔雀の間

- 次第： 1 挨拶
2 ワークショップの説明
3 ワークショップ（テーマ「むつで、ステキに働くには」）
4 グループ発表（A～Dグループ）

がちなワークショップ

テーマ **むつで、素敵(ステキ)に働くには...**

「むつで働くこと・本気と本音の交流会」

上記「テーマ」を企業関係者と学生が一緒になって考えるグループワークです。

「簡易マンダラート」によるグループワークと発表のポイント

●「テーマ」を読み解くマンダラワーク

●「テーマ」実現へのグループ別発表

①「企業」が対応できること、すべきこと

③「共に」対応できること、すべきこと

②「学生」が対応できること、すべきこと

グループワークのステップと時間配分

①自己紹介と役割分担 5分
自己紹介で互いにリラックスしましょう。スムーズな進行のため、「進行役」を決めます。

②テーマを実現する課題を、各自「付箋」に記入 35分
今回の「テーマ」からイメージする課題などを、各自で何枚でも自由に記入します。

③マンダラの枠(8つ)に、課題別にグルーピング 20分
グループ内で確認(紹介)し合い、似た内容をグルーピングし「8つの枠」を埋めます。

④8つの課題にタイトルを付け、優先順位を決定 20分
8つのタイトルは、いわば「テーマ」を実現するための各論のアプローチ課題です。

⑤内容のまとめと発表―「何が必要か、すべきか」 10分
マンダラ・プロセスから見えるアプローチ課題を、代表者が総括して発表します。 <発表3分>

出席者名簿

会社名・団体名	職 名	氏 名
株式会社マエダ		虻川 麻衣
社会福祉法人青森社会福祉振興団		藤井 茜
社会福祉法人青森社会福祉振興団		吉田 夏菜
株式会社大湊精電社		鷹架 秀明
株式会社大湊精電社		関向 安裕子
協同印刷工業株式会社		飛内 裕美
協同印刷工業株式会社		阿萬 浩美
株式会社熊谷建設工業	専務取締役	熊谷 圭之介
グリーン観光産業株式会社	常務取締役	庭田 良二
青森中央学院大学	学生	11名
弘前大学	学生	6名
青森中央学院大学	青森B.C.	佐藤 仁
青森 COC+推進機構	むつB.C.	坂本 謙二
弘前大学	弘前B.C.	野口 拓郎
弘前大学	COC推進室	中村 康人
弘前大学地域創生部	地域創生推進室	下總 由衣
むつ市企画政策部	市民連携課主事	橋本 佳奈
一般社団法人 tsumugu	代表理事	小寺 将太

合計 33名

交流会ワークショップのまとめ

Aグループ

公共交通の改善

道路が狭い、交通の利便性の悪さが物流に悪影響を及ぼしている

陸路だけに頼らずに、海上交通にも目を向けよう、津軽半島との交流促進を

通信環境の改善を

ホテルの Wi-Fi が弱い

観光産業について

とにかく人を呼ぶこと、博物館の新設を、外国語による説明書きや標識が少ない

下北ジオパークの研究機関の設置を

雇用環境について

賃金等の待遇改善、社宅の新設を、外国人の雇用促進

最新技術の活用

AI、IoT を導入した事業展開をはかる（魅力あるむつ市に）

フリートーキング

公共交通機関が不便だ。弘前からむつ下北まで来るのに、公共交通機関だけでは難しい／むつ下北地域を観光するにも車が無いと移動がしにくいというイメージがある／交通機関の利便性を高めてほしい／賃金等の待遇改善の話しがでたが、経営者でないのではなんとも言えない／むつ下北を離れて海外で生活したことで、むつ下北の良さが見えてきた／田舎で自然しかないというイメージだったが、そうではなかった。むつ下北地域に対する偏見がなくなった／人が優しくてよい印象をもった



Bグループ

美味しい食材が沢山

べこ餅、味噌貝焼きなど、豆にこだわったコーヒー店

若者が集まる場所の整備

アフターファイブを楽しめる場所、休日に遊べる場所

公共交通の利便性の拡大

港の利活用、フェリーの利活用、早朝の除排雪、駅周辺に観光拠点を

企業側にもとめられること

大卒でむつに来る人を増やす努力を、福利厚生充実、ITスキルを持つ人の採用の拡大
収入の安定

むつ市のいいところ

市民が優しく笑顔で接してくれる

フリートーキング

夜勤終わりで早朝に帰宅する際、除雪がされていないのが大変／働き方も多様になっているので、それに合わせた行政サービスを期待したい／車がないと観光しにくいイメージがある。交通機関の利便性を高めてほしい／むつ市出身者が集まる機会を増やしてほしい。弘前市の同窓会補助金ほうらやましい／むつ市内にベトナム人が多いことは魅力的。もっと国際化がはかれたらいい／一度、むつ市を離れて生活したことで、むつ市の良さや課題が見えてきた



Cグループ

いろいろなチャンスに恵まれている

会社の役員になれるチャンス、 企業にのびしろがある、土木・建設工事の発展性
豊富な水産物の輸出、訪日旅行者対象の旅行業（通訳やガイドなど）

結構大きな企業がある

マエダ、アツギ東北など、企業同士の横のつながりや企業同士の連携の必要性
若手社員や学生と交流する機会を作って欲しい。

自然景観がすばらしい

海釣りの環境をPR，函館が近いので更なる連携を、街並みがきれい
SNS を活用して効果的に情報発信をして欲しい

観光資源

恐山、田名部祭り、あんバター
企業を巡るだけでなく、地域を巡るツアーも企画して欲しい

フリートーキング

企業と学生の交流を継続してほしい／訪問先の企業の職員の方々の挨拶がとてもよかった／介護施設がとても充実していた。Day サービスの内容が素晴らしかった／福利厚生が充実している。完全週休二日、生活費が安く済む／野村建設のドローンによる測量など IT 化をさらに進めてほしい／むつに対する偏見が無くなった（設備等が新しい）／飲食店が意外に多く、かたまっている。また笑顔で挨拶してくれる／世代交代の促進を／専門学校の設置を／見学会の感想を大学に帰ってから発表する機会を設ける／今後も、むつ市の企業と関わるような企画があったら参加したい／フリートークの時間をもっと長くって欲しい／インターンシップに参加してみたい



Dグループ

交通の利便性

弘前、青森、八戸からのアクセスの改善、時間短縮を

食のPR

佐井村のウニ丼、食で観光客を呼ぶPRを

企業に求められること

働く仲間のネットワーク作り、異業種の交流

行政に求めること

若者が遊べる場所の設置、住みたくなる街づくり、移住の補助事業、専門学校や大学の設置を／閉店時間の延長を、広大な土地の利活用を、インスタグラムの利活用を、子育て環境の充実を／出会いの場を作る、おしゃれなアパートを建設しよう

フリートークキング

〈見学会や意見交換会について〉もっとじっくり見学したかった／企業の方々と直接お話しできて有意義だった／いろいろな業種を見学できたので良かった／このような見学会をたくさんやって欲しい／県内企業への就職のモチベーションが上がった

〈むつ市について〉もっと田舎で自然しかないというイメージでしたが、そうではなかった／思ったより住みやすそうで、就職先の候補として考えようと思っている／今度はゆっくり観光しにきたい／車がないと移動が難しいと感じた／買い物の場所（スーパーだけでなくアパレル関係のショップ）がもっとあればいい／人が優しくて良い印象を持った

〈大湊精電社への要望〉実際に作業をしている現場を見たかった／パワーポイントでの説明がわかりやすかった／会社案内等の印刷物があれば配布して欲しかった

〈グリーン観光産業への要望〉従業員の方々がホテルで働いている状況を色々見たかった



IV 参加学生の感想文

参加学生の感想文

1. 見学会を振り返り感想を書いてください
2. 今回の見学会で発見したことは何ですか

青森中央学院大学 経営法学部 Oさん

1. 私が今回見学会に参加した理由は、就職するにあたって企業説明会等の場の雰囲気慣れたいと考えていたからであり、このような機会があったために参加した。私は県内就職を考えており、今回の説明会においてむつ市内を見て回れたことは就職先を考えるうえで選択肢を広げる良いきっかけになったと考える。また、むつ市は私自身初めてであったのでそういう意味でもとてもいい経験となった。

私は2月に行われた企業との交流会にも参加しており、今回二回目の討論会であったが前回と比較して積極的に発言することができ、主観的に見ていい方向に変われていることが嬉しく感じた。

今回の企業説明会は非常にいい経験になった。今後も積極的にこのような機会があれば参加したい。また、このような場で得た知識や積極性、発言力や思考力は自分にとって絶対プラスに働くと考える。短い期間ではあったが、非常に充実した濃い2日間になった。

2. 身近な企業から私が認知していなかった企業までさまざまあり、またそのどれも異なる業種であったが、すべての企業において何かしらの問題に対して創意工夫をして打開策を見出していた点について、その考え方に対して私自身とても関心を持った。特にマエダさんで、過疎地域にあえて出店し、他地域に工場の建設をすることで店自体の従業員を減らすという工夫をすることで、過疎地域での営業に成功しているということは非常に関心を示すべきことである。またアツギ東北さんでは、男女で働く部門を分けることで働きやすい環境を整備しているとのことだった。

このように各企業ではさまざまな工夫をしていることが私にとっての発見である。経営をするうえで工夫をすることは当然だが、それでも私がこのように考えるのは、反対にそのような発想力や考え方を習得しない限り個性や長所の発揮ができず、社会での活躍は難しいということを改めて考えるきっかけになったからである。今回の経験を今後の就職活動に活かしていきたいと考える。

青森中央学院大学 経営法学部 Kさん

1. 私は今現在青森県での就職を考えていますが、具体的にやりたいことがないため、いろいろな職業について知りたいと思ったことと、来年の就職活動に向けてこういった機会を経験しておきたいといった理由から今回の見学会に参加しました。今回の2日間の見学を通じて各企業の企業形態や経営方針、求める人材などを知ることができたので今後の就職活動に活かしたいと思いました。どの企業の方々も手厚く迎えてくださったのでとてもありがたかったです。今後もこのような機会があれば参加していきたいです。

2. 今回の見学会で発見したことは、やりたいことがないのではなく、企業について知らないだけだということです。企業についての情報が少ないからやりたいことが見つからないので、これからはこのような機会に積極的に参加し、たくさん情報を集めていきたいです。

青森中央学院大学 経営法学部 Kさん

1. 今回、私自身初めてのむつ市内に、2日間にわたり企業を見学させて頂き、とても貴重な時間を過ごさせてもらいました。私が参加したきっかけは、2年生の夏に差し掛かり、就職のことも頭に入れていかなくては、と思い今回この機会を利用させてもらう形にしました。

各企業の担当の方々が経営理念や事業内容をプレゼンして下さり、職場見学や働いている社員さんと気軽に質疑応答をすることができるので、資料やホームページをみるよりもより分かりやすく情報も多く収集することができたと満足しています。

他にも企業説明会に参加してみて良かったと思うことは、こういった機会を見逃さず、将来に意識を向けている他の学生達と一緒に意見交換して良い刺激になりました。こういった見学会の参加を悩んでいる人には、怖がらずにぜひ参加して欲しいです。

2. 特に印象的だったのは、野村建設株式会社でドローンが活用されていたことです。今、建設業界でもドローンが普及していて、作業の効率化に成功していることに驚きました。また、意見交換会ではむつ市がテーマとなり、そのことについて企業の方々、教員、学生が一緒になって考え、意見を交換し発表することは、人前で緊張してしまう私にとって良い成長の機会となりました。

青森中央学院大学 経営法学部 Sさん

1. まず、私がこの見学会に参加した経緯は、知らない地域の中小企業を知ることで教養が広がると思ったからだ。実際に、今回 6 社に訪問し、多様な価値観を聞き、教養は広がった。たとえば、(株)マエダでいうと、過疎化している地域に店舗を置くことで過疎化地域の人の最寄りスーパーとして顧客に貢献していた。また、顧客に対してだけではなく、従業員に対しても細かい配慮がされていた。先入観ではあるが、いくら支社などを地域に置こうと、ここまで細かい配慮は大企業にはできないことなのではないかと思った。見学会を通して 6 社に共通していたことは、こういった細かいニーズを叶えていき、地元貢献しようという思いが強かったことであった。私もだが、学生の大半が大企業に勤めたいと思っているなか、地域の企業・中小企業を訪れたことによって、中小企業の良い面を知り興味を持つことができた。それこそが見学会の肝だったと感じた。

2. 上記でも述べたとおり、見学会で感じたことは、中小企業には中小企業の良い面があるということだ。しかし、その一方で、過疎化などが進んでいるため若い世代がいない、などといった多くの改善点があった。その多くの改善点なども含め、「むつでステキに働くには」というテーマのもと、グループディスカッションをした。実際にむつで働く人の話を聞くと「賃金が安い」「過疎化が進んで顧客自体が減少してきている」などの悪い面、「職場環境が良い」などといった良い面と、どちらも出てきた。もちろん、悪い面は改善し良い面は伸ばすしかないが、具体的な対策ということが難しかった。話し合いにより、「人口を増やすこと」「観光客を増やすこと」が必要であるとなった。では、最終的にそれを増やすには、むつが良いところであると企業・役所が PR することが一番良い対策であると考えた。実際にむつは良いところであったし、その PR は足りないと感じた。地域・企業に密着し、良い面、悪い面が分かり、そのことについて真剣に考えることによって私の教養は広がった。

青森中央学院大学 経営法学部 Lさん

1. むつの合同企業見学会を通して、多くの企業の地域や地元の人々の意見を聞くことが出来ました。どの企業でも真剣で熱心に働いていながらも、迎えてくれた顔はどれも笑顔でした。それが強く印象に残っています。

各企業の担当の方が経営理念や事業内容をスライドを使ってプレゼンしてく

れ、施設見学では実際に働いている様子を見学させて貰いました。実際に働いている社員さんと質疑応答を交わすことで、より深く企業情報を受けることができたと感じます。むつに限らず県内様々な土地で行ってほしいと思いました。

はっきりした業種をいまだに決められてはいませんが、世の中にはこんな仕事がある、という認識をすることが出来ました。今回の見学会は自分にとって就職活動に向けてとても良い経験になりました。ありがとうございました。

2. むつという場所についてもよく知ることが出来たと思います。むつ市が本州最北端下北半島に位置し、それぞれ特色ある海に囲まれる。下北地域の中核都市として、福祉、医療、環境、産業など都市基盤を整備するとともに、就業機会の拡大にも取り組んでいるのだと思いました。

企業の説明を聞き見学したことで、実際にはこんなにもたくさんの仕事があるのだと知ることができました。初めて訪れたむつ市ですが、とても素敵なおとこであり、就職活動に向けての大きな一歩になったのではないかと思います。

青森中央学院大学 経営法学部 Lさん

1. 見学会で二日間あつという間にたったが、むつ市での 6 社を見学できたのでいい体験になってきたと思う。1 社ずつ 1 時間訪問して、短い時間だったが十分に会社の特徴などが理解できた。学校やバイト先以外に、日本での生活を全然知らなかったので、見学を通じて、将来の私たちの姿を想像できるようになりました。日本の社員は無口だというイメージを持っているが、見学で 6 社訪れ、社員がやさしく熱心に働くだけでなく、学生たちからの質問にわかりやすく説明してくれた。一番印象に残ったのは最後のワークショップで、学生と会社員が交流できてよかった。「むつで働くこと・本気と本音の交流会」のテーマは難しいと思って始まる前にすごく緊張したけど、社員の人たちがやさしく支援し進路を教えてくれたので、安心して自分の意見を出せ、最終のグループ発表も成功したと思う。二日間で貴重な体験ができ、未来の就活に役に立つと思う。

2. 今回の見学会では株式会社だけでなく社会福祉法人にも訪問した。初めて社会福祉法人に行つて、社会福祉事業を行うことを目的として法律の定めるところにより設立された法人だと分かつた。青森社会福祉振興団は特別養護老人ホームだそう。老人向きの環境を作り、完璧な生活ができるように看護者が協力している。年を取ると自分の能力がないと思う老人がいるので、どうやっ

て老人がそういう考え方を消して残り時間を楽しく過ごしていけるのかを考えながら、看護者はしっかり行動しなければならないと感じた。案内いただいた方のお話から、現在の仕事はお金をもうけるだけではなく、温かい心を込めて老人の生活を援助するためとわかり、私はすごく感動した。訪問した後、ベトナムにも早くそういう法人ができるように祈っている。

青森中央学院大学 経営法学部 Oさん

1. 9月13日、14日とむつ市のいくつかの企業を見学させてもらった。それぞれの企業を回り、どのような仕事内容なのかを見学させていただいたが、どの企業の従業員の方々も私たち学生に対してしっかりと挨拶をしてくれた。むつ市の人々の人柄はとてもよいと感じさせられた。

また、口を揃えて私たち学生が言われた事は、是非むつ市で働いて欲しいというものだった。今まで一度もむつ市で働いてみようと感じたことはなかったが、今回の見学会に参加させてもらったことで、むつ市に対して興味を持つことができ、自分の就職の選択肢が広がったと感じている。

最終日のワークショップの場では、私たち学生とむつ市の企業の方々と交流できる機会があり、むつ市でステキに働く為に、むつの課題について語り合った。このような見学会に参加したことで、様々な人と交流することができ、また自分の視野も広がった。

2. 今回、私は生まれて初めてむつ市に行った。今までむつ市に行ったことがなかった為、自分のイメージでしか想像することができなかったが、実際に行ってみると非常に住みやすそうな町だと感じた。

また、様々なむつの人々と関わって感じたことは、非常に人思いな方が多いということ。私たちが宿泊したホテルニューグリーン付近には、たくさんの居酒屋が密集しており、青森市や弘前市とは異なる雰囲気であった。むつ市は遠いイメージや、田舎なイメージを持たれやすいが、実際に行くことでそのイメージはなくなると思う。またむつ市に足を運びたいと感じた。

青森中央学院大学 経営法学部 Mさん

1. 今回、むつ市の合同企業見学会に参加させていただきました。実を言えば、就活に活かすためだとか、企業を知ろうだとか、高い意識をもって臨んだわけ

ではありませんでした。計 6 社を見学させていただきましたが、特に印象的であったのが「社会福祉法人 青森社会福祉振興団」さんです。自分はまだ若いので、デイサービスや老人ホームなどの仕組みはひとつもわかりませんでした。が、いざ中を拝見させていただくと、考えられた建物の設計や老人の需要に合わせた部屋がいくつもあり、有料でマッサージも楽しめるといった大変有意義に過ごせる室内になっていました。また、認知度の度合いによって場所をわけしており、誰がどこで何をしているのか、防犯カメラの設置や従業員の気配りで、転倒したらすぐ駆け付けれるように工夫もしてありました。

このような老人ホームだったら、安心して老後を楽しめると思いました。これから高齢化が進むにつれ、なくてはならない存在だと実感しました。

2. 企業見学会の趣旨とは全く違うのですが、大変趣のある居酒屋やスナックがむつ市には揃っていました。雰囲気も良く、仕事終わりなどに一杯やりに行きたくなる様な、味のある飲み屋街で、むつ市にまた行く機会があれば、また立ち寄りたいたいです。

青森中央学院大学 経営法学部 D さん

1. 友達に誘われて合同企業説明会に参加することができ、とてもいい経験ができたと思います。2 日間は短いですが、むつ市の 6 社が見学でき、弘前大学の学生と交流し友達になって、楽しかったです。

青森県内に就職の希望があるが青森市しかわからず、他市はどんな業類があるのか、どんな場所があるのか、もっと知りたいという気持ちを持って合同企業説明会に参加することで自分の知識が広がりました。むつ市のことが全然わからないからこそ、むつ市は素晴らしい自然があり、県内にはこんな仕事があるという認識をすることができました。

今回の合同企業見学会に参加して貴重な体験ができ、自分の就職活動に役立って良かったと思います。ありがとうございました。

2. 今回の合同企業見学会は 2 つ発見があります。第 1 番は、むつ市は素晴らしい自然のあるところです。綺麗な海が見え、涼しくて、緑が多いので、忙しい生活の中でこのような所に住むなら気持ちが良くなると思います。

第 2 番は、見学した 6 社の中で一番心に残っているのは、野村建設株式会社です。野村建設株式会社に来て 5 階の会議室で説明を聞きました。びっくりしたのは、会議室に入ると、外の景色が目が離せないぐらい本当に綺麗だと思い

ました。また、会社でドローンを見せてもらい、自分がドローンの使い方を教えてもらいながらやってみたことが、面白い体験でした。今回の合同企業見学会に参加しなければ、こんな重要な発見ができなかったと思います。

青森中央学院大学 大学院 Nさん

1. 今回むつ市にある6社の企業見学をでき、とてもよい経験ができたと思います。外国人として青森県について知っているのはほとんど観光地でした。むつ市に行ったことがあり、市のことについて様々なことを聞いたことがありますが、どんな企業があるのかまったく知りませんでした。二日間の見学のおかげで、雰囲気にくるまれるように感じました。このような機会があって、自分の就職活動に向けて、楽しく役に立つ経験になりました。どうもありがとうございました。

2. 今回の見学を通して、多くの企業を見せていただいて、むつ市もすごいと思いました。むつ市は遠い所で、あまり大きな会社があると考えていませんでした。今回の見学で、企業のことでも市内のことでもっと分かるようになりました。6社の中で一番心に残っているのは、アツギ東北株式会社でした。工場に入ってそれぞれの工程を見ながら、担当者から熱心にすべてのことを詳しく説明していただきました。株式会社マエダは素晴らしい会社だということはいまでもないですが、やはり実際の現場を目で見ることで印象が強くなりました。6社の見学をし、むつ市はこれからももっと発展するだろうと思います。

青森中央学院大学 経営法学部 Hさん

1. 9月13・14日にむつ企業見学という課外活動に参加しました。2日間という短い間で、未来の就職に対して大切な体験をさせてもらいました。

そのときにさまざまな企業に行って、どの企業もそれぞれ特徴があり、普段見ることのできない場所を見ることができて、よかったです。

2. 見学会の中で最もよかったのは「マエダ」という企業です。そこでは、ベトナムの先輩が働いていて、新入社員は入社後に、社会人としてのマナーやスーパーマーケットの基本を学べるからよいと思いました。

弘前大学 理工学部地球環境防災学科 Oさん

1. むつ市は、僕にとっては青森県に越してから存在を知った、下北半島に有る恐山で有名な街でしかありませんでした。

しかし、今回の企業見学を通して、日本一の生産量を誇るストッキングメーカーや過疎地を見捨てずに進出するスーパーマーケット等、他では中々見る事の出来ない企業がたくさん有るという事を知る事が出来ました。実り多い見学会をどうも有難う御座いました。

2. むつ市で働くなら、地方貢献の他にも工業やサービス業もあり、そのどれもに働きがいがある事。

弘前大学 医学部保健学科 Kさん

1. 今まで青森県について全く知識のなかったため、今回のイベントに参加し、むつ市で活躍している企業の実態について知ることができた。さらには、むつ市で働いている方々と「むつで、素敵に働くためには…」を題に本気でディスカッションを行い、従業員側の見解と学生側の見解を交流させることでお題について多面的に考えることができた。グループメンバーでフリートークの時間では、株式会社熊谷建設工業の熊谷さんに従業員の次世代教育について意見をもらった。教育制度、企業の環境の福利厚生がこれからの企業に必要なことだと言っていた。これは企業だけではなく病院でも同じことがいえるだろうと思うので、こういうお話を聞けて良かったと思う。

また、私は野村建設さんが現場の撮影に利用しているドローンを操作させてもらった。野村建設さんには優秀なドローン操縦士がいると聞いていたのでドローン操作は難しいと思っていたが、実際に操作してみるとそんなに難しくなかったことが驚きだった。

2. むつ市は僻地、地域過疎地だという認識があったが、実際、自分の目で見てみると私の偏見がなくなった。見学させてもらった工場の従業員の方々は生き生きと仕事ができているように見えた。むつ市の工場での生産している商品の売り上げ向上を図るための商品研究機関が充実していた。新入社員の教育プログラムはあまり充実しているようには見えなかった。

弘前大学 理工学部機械科学科 Iさん

1. 今回の企業見学会では様々な職種の企業を見学でき、将来の就職を考えるのに有意義な経験となった。アツギ東北では製品ができるまでの工程を見ることができ、機械のことや職場環境を知ることができた。大湊精電社では会社の概要や仕事内容、海上自衛隊の装備についての詳細を知ることができた。野村建設では会社の業務内容やドローンについてのことを知ることができた。青森社会福祉振興団では施設を実際に見学した。介護施設に今まで訪れたことがなかったのが新鮮な経験だった。デイサービス施設の充実した設備、サービスに驚いた。マエダでは企業内容や入社してからの流れ、先輩のお話を聞くことができた。よく使うスーパーマーケットについて詳しく知れた。グリーン観光産業では会社の沿革や他のホテルとの違いを知ることができた。見学会の最後に行われた「むつで働く、本気と本音の交流会」ではむつで実際に働く人と一緒にむつの現状やどうしたら楽しく働くことができるのかを話し合った。様々な視点から様々な意見が出て、良い交流会だと思った。働く際に大事にしたいことを知ることができた。

2. (1)自分は機械系の仕事に就きたいと考えている。そのため、家電メーカーや自動車メーカーへの就職を考えていた。しかし、介護の現場や食品でも機械を扱っていたり、理系文系関係なく採用していたりしているということが分かった。今後、もっと様々なジャンルの仕事について調べていきたいと思った。(2)福利厚生がしっかりしていたことだ。今までは福利厚生の部分はあまり考えて居なかった。今回の見学で日曜完全休業や研修制度などがしっかりとしていた企業が多くあった。(3)地元で働くということへの関心が深まった。今までは機械系の仕事は青森に少ないと思っていたり、給料が低いや交通の便が悪いと思っていたりして県外へ就職した方が良いと思っていた。今回の見学で福利厚生や様々な働き口を知ったり、交流会でむつの良さや青森の良さを知ったりして、県内の就職も有りだと思った。他地域での企業見学会や来年度の企業見学会にも積極的に参加して、良い就職先を見つけたいと思う。

弘前大学 農学生命科学部食料資源学科 Kさん

1. 今回の見学会は自分にとって非常に実のある内容の濃いものとなりました。将来むつ下北地域で就職を考えている身として、様々な企業を学生という大人

でも子供でもない立場から見ることができ、多くの発見がありました。今後人口の減少と少子高齢化の影響を直に受ける青森県全体として、若い世代のエネルギーをどう活用していくか、また今現在働く世代の知恵をどう残していくか、簡単には解決できない問題が多くあり、そこに自分というちっぽけな存在がどう関わっていくことができるのか、深く考えさせられました。今現在私は何度も下北地域を訪れ、毎回たくさん学びを得ることができています。そしてもし自分が大学を卒業して県内に就職した時には、今にも増して地域・社会に貢献したいと考えています。「地域づくり」には終わりはないと思います。今回の見学会を通して自らの将来像がぼんやりと見えてきました。いずれは下北地域のみならず青森県全体を巻き込んだ地域づくり、人づくり、社会づくりが成され、そこに自らも寄与していきたいという思いが強固になりました。

2. 今回の見学会で発見したことは主に2つあります。1つは今回訪問した企業はいずれも社員を大切にしている企業であるということです。特にアツギ東北株式会社においては、誘致企業であるにもかかわらず全国でも唯一無二の生産拠点であり、むつ市の地域性をフルに活用することで高品質なストックキングを生産していました。200億円近い年間売上を誇るアツギ東北で働くことに、社員の方々もやりがいを感じておられるようでした。もう1つはいずれの企業も地域に密着した企業であるということです。これは株式会社マエダにおいて、1800世帯以上であれば過疎地域であっても出店する、むしろ過疎地域に積極的に出店するというポリシーに顕著に表れていました。また、お買い物バスを運行することで、買い物弱者であっても店舗に足を運ぶことができる、ある種社会福祉的な事業も行っていることは、地域に住む年配者にとってありがたい存在であると感じました。

弘前大学 人文社会科学部社会経営学科 Nさん

1. 今回の見学会では日本企業に強い印象を持った。アツギ東北株会社でストックキングが作成されているところを見学できた。前から利用しているストックキングはどのように生産されるのか好奇心を持っていたからである。社会福祉法人青森社会福祉振興団で日本の老人ホームがどういうところか、理解できた。特に、野村建設株式会社では日本の海藻を植える生産技術について興味を持っている。ベトナムは海岸が広いので、海藻を生産しており、外国に海藻を輸出すればいいのではないかという考えが自分の中で浮かんだ。各会社は規模が広く、多くのマシンとロボットを利用し、運営している。なので、人手不足なの

は問題にならないと思っている。

留学生が参加できたので、良かった。留学生は日本企業に興味を持てば、将来に日本で就職するかもしれない。私も日本で就職したいと改めて思った。

2. 私はベトナム出身ですが、日本の企業とベトナムの企業は違うなと思った。例えば、ベトナムでは、企業に人手が多く、ロボットがあまりいないので人件費がかかる。だが、日本はロボットを導入し、人件費を抑えていると思った。

弘前大学 人文社会科学部文化創生課程 H さん

1. 今回の見学会で一番感じたのは、職業に対する従業員の方々のプロ意識の高さ、やりがいを見いだす力です。仕事を淡々とやることは簡単にできますが、今回見学させていただいたすべての企業のみなさんが、きちんと自分の役割を確認して熱心に仕事に打ち込んでいました。高校までの学生と違い、大学生になるとすべての行動が自分の責任なので、面倒な行動はしたくなくばしなくても過ごしていけます。しかし企業でなり振り構わず働く方々を見て、勝手な想像ですが、家族や子どものために働いているのだろう、親、自分の生活のため、作業を続けているのだろう、と、当たり前のことですがすごく感動して、もっと自分の行動に対する意識を高めなければならないと感じました。

また、むつ市の方々は温かかったと本当に感じます。あまりいくことがない下北の地域ですが、今回の見学会でむつを体験して、今考えている将来の夢や就活の視野にいれてみようと思うことができました。

2. 特に言って 3 つあります。一つ目はアツギ東北株式会社様の従業員の数がほとんど女性だということです。工場の従業員はイメージとして男性が多いイメージでしたが、この事実には驚くと同時に納得しました。ストッキングは女性が多く消費するもので、それを作るには女性独特の繊細な感覚が必要だし点検の工程でもやはり「女性の目」が一番、検査に適しているからです。女性の正規雇用が中々難しくなっている時代で、多くの女性を雇用できる企業は貴重です。その面でも、アツギ東北様は地域に貢献しているのだと感じました。

二つ目は大湊精電社様で働く弘大卒業生の活躍です。物理の専攻だったそうで、大学院で学んだことが仕事につながっていることを説明してくださり、改めて大学のまなびの大切さ、可能性の高さを感じました。人文社会科学部は多言語、地域の課題、世界、日本の歴史を学べるので、知識を生かした働き方をしたいです。

また、三つ目の発見として、介護福祉士の資格は取っておくべきものだという事です。文系でも関係なくとれますし、第一これから親や祖母の介護が必要になるかもしれないからです。この発見から、その他の資格取得も重要だということを感じました。就職にも活用できるし、なにより勉強は自信をくれます。人文社会科学部は他の学部より専門科目が少ない場合があります比較的時間があるので、そのことを活用してこれからは時間を有効に使っていきます。これらの三つの発見を心にとどめて、また自分のなりたい姿を目指して勉強します。

進化を遂げる「合同企業等見学会 in むつ」

昨年度に引き続き「合同企業等見学会 in むつ」に引率教員として参加しておりますが、今回は4つの大きな特徴があったと捉えています。

1つ目として「文理問わず様々な学生が参加したこと」が挙げられます。人文系に限らず、理学・農学・医学の分野を専攻する学生の参加もあり、特に医学部の学生が「地域医療」という視点を持って参加してくれたことは大きな出来事だったと思います。住民目線を養うために地元企業等で働く方々に着目していた学生の姿勢は、この事業の新たな可能性を感じさせてくれるものでした。

2つ目として「1年生の参加が目立ったこと」が挙げられます。弘前大学においては1年生を対象としたキャリア教育が必修化されたことから、今後さらに地元企業等に対する関心も高まっていく可能性があります。私自身もその授業を受け持っていますので、この度の見学会については後期の授業内でもしっかりと触れていく予定です。

3つ目として「青森県外の出身学生の参加が多かったこと」が挙げられます。県外出身の学生はむつ市への関心が高いのかもしれませんが、逆に、むつ市出身の参加学生が0名だったことは大きな課題と言えそうです。むつ市出身の学生に対し、地元企業等の魅力を伝える有効な手段を考えていく必要があるでしょう。

4つ目として「ベトナム人留学生の参加が多かったこと」が挙げられます。ベトナム人留学生が両校併せて6名参加したことは、私にとっても大きな驚きでした。感想文等からもベトナム人の視点はどれも興味深く、むつ市や地元企業等の新たな魅力をさらに発掘できる手応えを感じました。ベトナムとの積極的な国際交流をおこなうことで、海外志向の学生も巻き込んでいける可能性もあるでしょう。

以上、4つの特徴がこの度の見学会で見受けられました。回数を重ねるごとに「合同企業等見学会 in むつ」の進化を感じております。地元企業等への学生の就職促進が出発点となった本事業ではありますが、そこで見えてきた可能性や課題も数多く浮き彫りになってきたと思います。それらをどう活かし、どう解決していくかを本気で考える機会も今後必要になってくるのかもしれません。

青森 COC+推進機構

弘前ブロック・コーディネーター

(弘前大学 COC 推進室 助教)

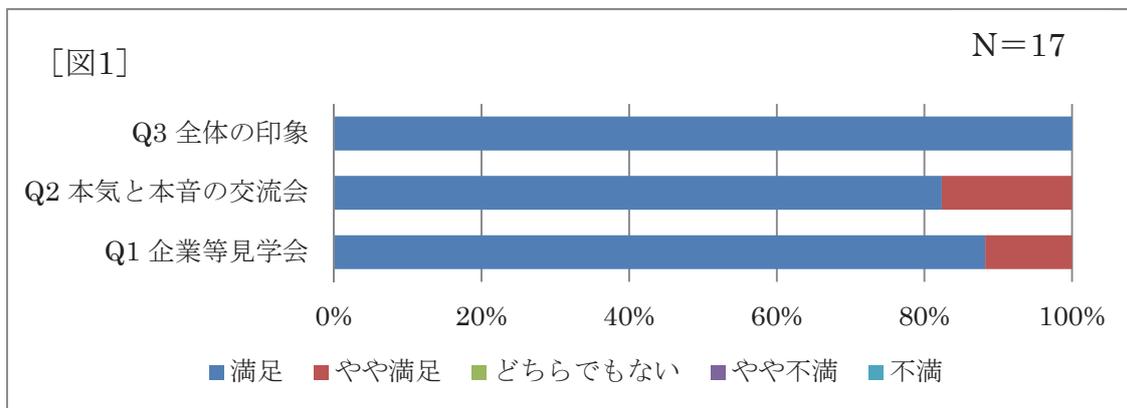
野口 拓郎

V アンケート集計

アンケート集計（大学生）

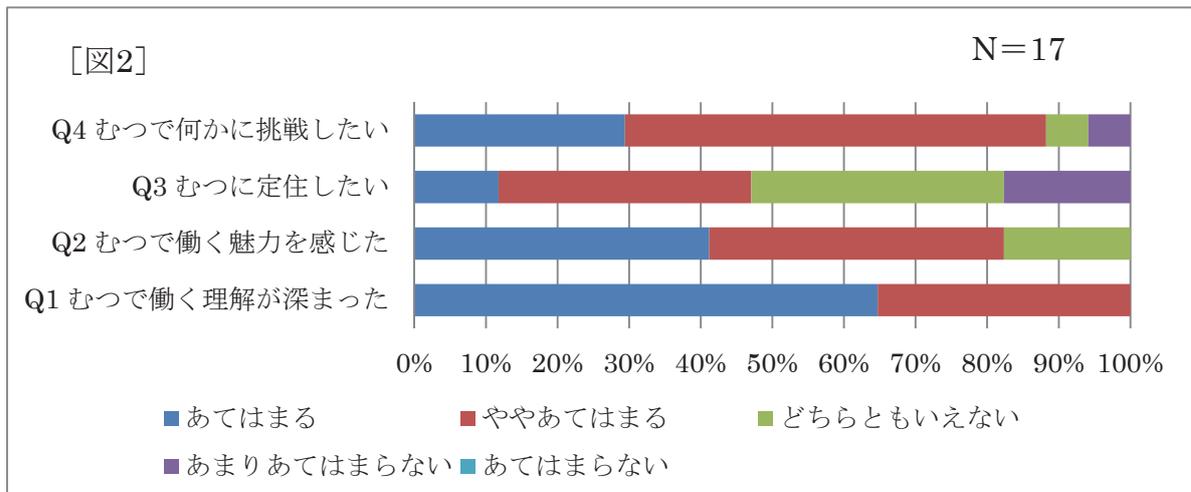
1. 「合同企業等見学会 in むつ」の満足度

今回の見学会では、むつ市内 6 企業等を見学してまわり、その後、企業関係者と大学生が 4 つのグループに分かれて「むつでステキに働くには」をテーマに話し合った。見学会と交流会、全体の印象の満足度をまとめた結果が図 1 である。いずれの項目も「満足」との回答が 80%以上となり、「やや満足」を含めると参加した大学生全員に満足していただけた事が分かる。

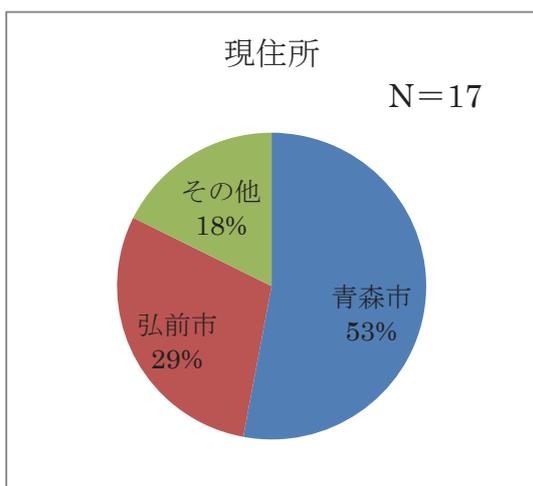
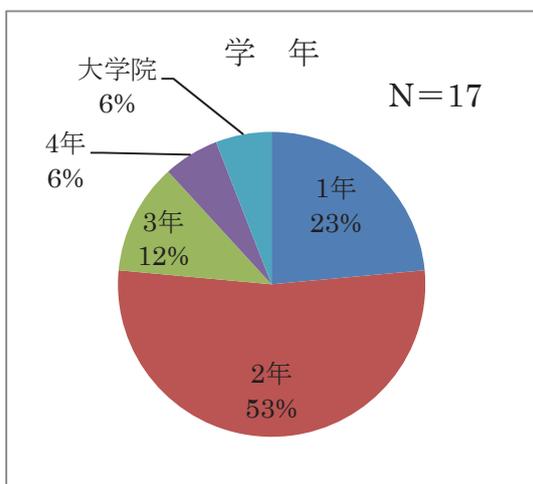
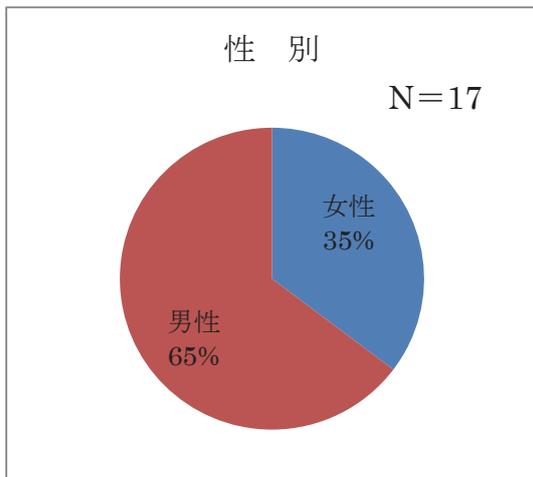


2. 「合同企業等見学会 in むつ」に参加したことによる意識の変化

合同企業等見学会に参加して大学生の意識がどのように変化したのか、4 つの項目について「あてはまる」の割合を図 2 に示した。むつで働くことについては理解が深まり、魅力も感じて、挑戦する気持ちを抱くようになった学生が 80%を超えているが、定住したい意識への変化は 50%に届かなかった。



3. アンケート属性とフリー記述



【気づいたこと】

むつのイメージが変わった。住みやすそう／むつの飲み屋街はすごく良い／気を使わない、いろいろなテーマを話し合うことができた／運営が少しグダグダだった。しっかりと連絡をとろう／恐山以外のむつ市の魅力、楽しむための資本と人手の不足／介護施設の仕事でも、考えようや、やりがいの有無によっては楽しく明るくできるということ。ATSUGIさんの、縁の下の力持ちの従業員さん／福利厚生がしっかりしていた

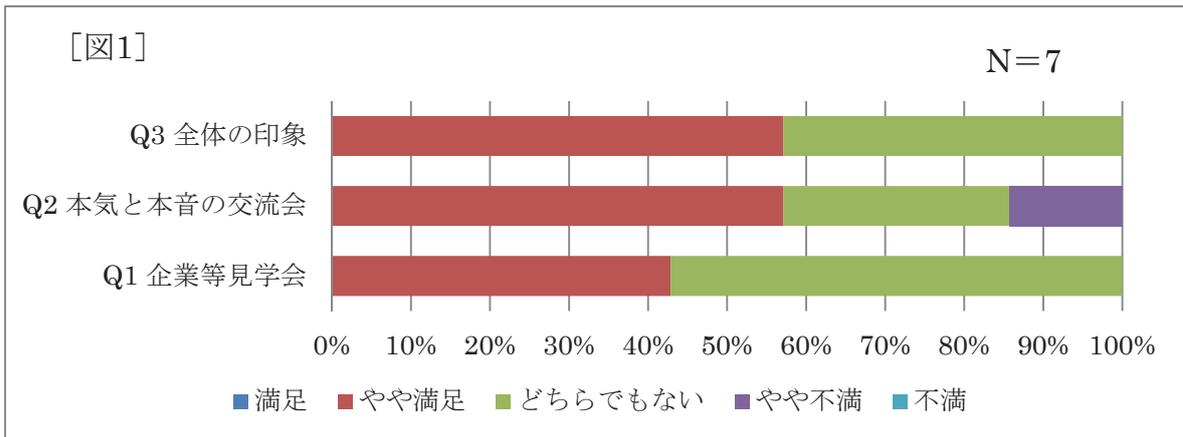
【意見、感想等】

いろんな人と交流することができていい経験になった／留学生と仲良くなった／発展の伸びしろがまだ大きい、可能性に満ちた街だと思いました／弘大のベトナムの方、中央学院大のベトナムの方々と友達になれたのは大きい（みんなまじめで刺激を受けた）

アンケート集計（企業関係者）

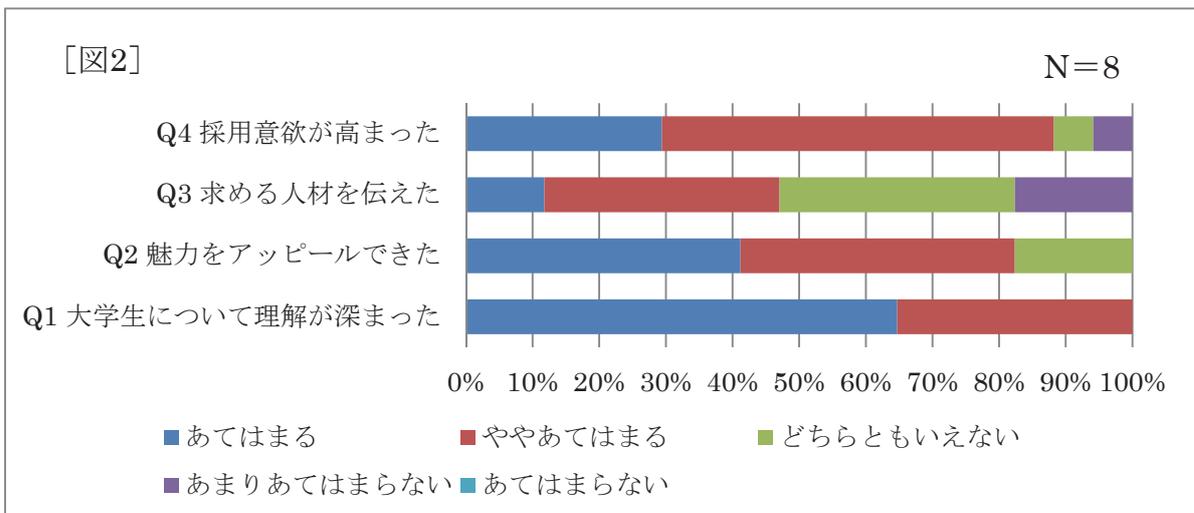
1. 「合同企業等見学会 in むつ」の満足度

交流会に参加した企業関係者を対象にアンケートを行い、見学会と交流会の満足度と、全体の印象を図 1 にまとめた。見学会に参加していない企業関係者もいたことから「やや満足」が 50%を下回った。



2. 交流会に参加したことによる意識の変化

交流会に参加して、企業関係者の意識がどのように変化したのかを図 2 に示した。企業関係者全員が大学生についての理解が深まったことに「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した。また、魅力をアピールできた、採用意欲が高まったということを 80%以上の方が感じているが、企業の求める人材について伝えることができたと感じた方は 50%を下回った。



3. フリー記述

【気づいたこと】

- ・むつのイメージの無さに驚き、外国人から見たむつの現状を知る事が出来た
- ・このような企画を数多く実施して欲しい
- ・むつに関心を寄せる学生がいることを知ることができた

【意見、感想等】

- ・意見交換会の機会をもっと頻繁に、意見交換会のテーマが抽象的
- ・学生の意見を聞く機会をもっと欲しい
- ・学生の意見を聞くことが出来たのは、とても良い
- ・とても良い企画なので、継続、発展させて欲しい

アンケート用紙（大学生向け）

大学生向け調査票

「合同企業等見学会 in むつ」アンケートご協力をお願い

今回は「合同企業等見学会 in むつ」にご参加ありがとうございました。

今後の参考にいたしますので、下記アンケートにご協力ください。

1、2分で回答できるアンケートです。ぜひご協力お願いいたします。記入後は、回収箱に投函ください。

設問 1 見学会の満足度をお知らせください。1～5の選択肢の中から一つ選んで○をつけて下さい。

		満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
Q1	合同企業等見学会	5	4	3	2	1
Q2	むつで働く、本気と本音の交流会	5	4	3	2	1
Q3	全体の印象について	5	4	3	2	1

設問 2 見学会・交流会に参加して、以下の意識の変化はありましたか。

1～5の選択肢の中から一つ選んで○をつけて下さい。

		あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
Q1	むつで働くことについての理解が深まった	5	4	3	2	1
Q2	むつで働くことの魅力を感じた	5	4	3	2	1
Q3	むつに定住したいという気持ちになった	5	4	3	2	1
Q4	むつで何かに挑戦しようという意識が高まった	5	4	3	2	1

以下の設問について、回答を記述して下さい。

Q5	見学会・交流会に参加したからこそ、初めて気づいた事柄があれば、それについて教えて下さい。 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>
Q6	その他、意見、感想等があれば、それについてぜひ教えて下さい。 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>

Q7	回答者ご自身について伺います。あてはまる選択肢の中から1つに○をつけて下さい。				
	性別	1. 男性		2. 女性	
	学年	1年	2年	3年	4年 大学院
	現住所	1. 青森市	2. 弘前市	3. むつ市	4. その他

ご協力、ありがとうございました。アンケート調査結果は本事業の目的以外で使用することはございません。

アンケート用紙（企業関係者向け）

企業関係者向け調査票

「合同企業等見学会 in むつ」アンケートご協力をお願い

「合同企業等見学会 in むつ」にご参加ありがとうございました。

今後の参考にさせていただきますので、お手数ですが、下記アンケートにご協力ください。

1、2分で回答できるアンケートです。ぜひご協力お願いいたします。記入後は、回収箱に投函ください。

設問1 今回の満足度をお知らせください。1～5の選択肢の中から一つ選んで○をつけて下さい。

		満足	やや満足	どちらでもない	やや不満	不満
Q1	合同企業等見学会	5	4	3	2	1
Q2	むつで働く、本気と本音の交流会	5	4	3	2	1
Q3	全体の印象について	5	4	3	2	1

設問2 見学会・交流会に参加して、以下の変化はありましたか。1～5の選択肢の中から一つ選んで○をつけて下さい。

		あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	ややあてはまらない	あてはまらない
Q1	県内大学生の考え方、行動について理解が深まった	5	4	3	2	1
Q2	県内大学生へむつで働く魅力をアピールできた	5	4	3	2	1
Q3	県内大学生へ企業が求める人材を伝える事ができた	5	4	3	2	1
Q4	県内大学生の採用意欲が高まった	5	4	3	2	1

以下の設問について、回答を記述して下さい。

Q5	見学会・交流会に参加したからこそ、初めて気づいた事柄があれば、それについて教えてください。	{ }
Q6	その他、意見、感想等があれば、それについてぜひ教えてください。	{ }

Q7	回答者ご自身について伺います。あてはまる選択肢の中から1つに○をつけて下さい。			
	性別	1. 男性		2. 女性
	経営者・社員	1. 経営者	2. 総務・人事担当者	3. 社員
	現住所	1. 青森市	2. 弘前市	3. むつ市 4. その他

ご協力、ありがとうございました。アンケート調査結果は本事業の目的以外で使用することはございません。

あしがき

この事業を始めてから3年になりますが、事業目的はなんといっても、むつ市内の企業の実状を学生に知ってもらい、就職活動の選択肢の一つに選んでもらうことです。

ほとんどの学生は、むつ市に来るのは初めての方が多く、見学してみても、「本州の最北にこんな会社があったなんて」と驚きの声をあげています。

大学や専門学校のないむつ市内の企業にとって、一度に10数名の学生を対象に会社説明をすることや、学生から質問されたり、会社の印象を聞いたりする機会は滅多にない貴重な機会です。二日間にわたっての見学会は、一日目の午後1時から二日目の午後2時頃までと、実質7～8時間程でしたので、1社あたり1時間程度の時間しか見学に充てられませんでした。受入れて下さる会社には、効率的に説明をしていただくようお願いしておりますが、パンフレットを用意したり、プレゼンテーション準備をしたり、説明要員を配置したりと、どちらの会社も非常に好意的に受入れて下さっております。

今回、両大学ともにベトナムからの留学生が参加して下さい、外国人から見たむつ市や、外国人から見た会社、という点でも参考にすべき点が多かったと思います。

市内の企業でも、株式会社マエダさんが、ベトナムからの留学生を採用しておりますし、介護施設の「みちのく荘」では、ベトナムのフエの看護学校で研修を受けた方々が多数勤務しておられます。大湊精電社さんでは、社長自らベトナム語で挨拶をしてくれましたし、ベトナム語で歓迎の言葉も掲示されておりました。初めて訪れる土地で、母国語で出迎えられると嬉しいものです。お心遣いに感謝致します。

昨年度から実施しました「学生と企業関係者との交流会」ですが、今年は17名もの学生が参加してくれましたので、時間を有効に使うためにも、7～8名のグループに分けて、ワークショップを行いました。約1時間半の時間をとりましたが、出席者からは、もっと時間が欲しかったとか、今後もこのような機会を設けて欲しいと、嬉しい感想をいただいております。

実施時期につきましては、9月の中旬であれば、両大学ともに夏休み中であり、学生の負担も少ないということで、昨年度からこの時期に実施しています。

3年間継続して実施している事業ですが、企業関係者の方々からは、いかにむつ市や下北のことが学生に知られていないか愕然とした、と言われます。情報があふれている現在、待っていても学生は集まりません。いかに、むつ下北に目を向けてもらうか？効果的な情報発信を継続していくことが必要です。

青森 COC+推進機構

むつブロック・コーディネーター

坂本 謙二

平成 27 年度採択 文部科学省
地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）
オール青森で取組む「地域創生人財」育成・定着事業

発行 平成 30 年 11 月
青森中央学院大学 COC+事業推進事務局
〒030-0132 青森市横内神田 12
TEL: 017-728-8161(直通) FAX: 017-738-8333
E-mail: acgu-coc@aomoricgu.ac.jp



平成 30 年 11 月